

あいら若者まちづくり会議

日時：令和4年8月18日（木）
10：00～12：00
場所：始良公民館2F 第4・5会議室
出席者（高校生）：13名（1名欠席）



石田尾教授

まずは、各高校ごとに発表をお願いします。
加治木高校から順番をお願いします。

まず『商業施設』について、ボウリング場やラッシュ、ファッションショップのZARA等が欲しいです。

『観光・レジャー』については、芝生の公園やイルミネーション等、友達と遊べる場所やプールがほしいという意見が多かったです。

『交通』については、特に電車の本数と自転車レンタルの鹿児島市の「カゴリン」、始良市でいうと「アイリン」という名称で設置して欲しいです。

『行政』については、小学校や中学校がかなり古いため改修してほしいです。

『環境・ひと・心』については、小・中学校等、学校と地域のつながりが始良市は弱いと感じるため、大人と子どもや、近くの家同士がつながれるような取り組みや活動が設けてほしいです。

始良市は、現在商業施設が増えてきていますが、一方で昔からある農家などもまだ残っているため、そこの人材不足の解消の取り組みがあればいいなと思います。

他にも髪型等ブラック校則の廃止については、学校単位の問題にはなりますが、市などからもより促進していただければ生徒会としても活動しやすくなりますし、日常過ごしやすい学校、中高生の生活環境をつくることにつながると思います。



加治木高校生

『商業施設』では、ボウリングやラウンドワンなどの意見ができました。

『観光・レジャー』では、キャンプ、プール、お祭りなどの意見があり、コロナがなくなったらおもしろい場所を今のうちに作ってほしいと思います。

『交通』の面では、JRの本数が少ないので、部活動に遅れてしまったり、早く帰りたいときに帰れず遅く不便なので、改善するようにJRに声掛けをしてほしいです。

『行政』では、街灯が少なく、暗すぎて不安になることがあるので増やしてほしいです。

『環境・ひと・心』では、ボランティアで、地域の方々で見守りなどを強化してほしいです。

最後に地域住民と話す機会が少ないなと前々から思っていたため、そこを増やしてほしいと思います。



加治木工業生

『商業施設』では、近くでショッピングできる所とか、室内で遊べるゲームセンターなどができています。他に、韓国が今人気なので韓国の専門店ができてほしいです。

『観光・レジャー』では、ボウリング場やバッティングセンターなど室内で体を動かして汗をかけるところがほしいなと思います。

『交通』では、電車やバスの本数を増やしてほしいという意見があります。バス停は設置されているのにバスの本数が少ないという生徒の意見もあったのでそこを改善してほしいです。

『行政』では、コロナがなくなったら祭りをめいっぱい楽しめるようになってほしいなと思います。

『環境・ひと・心』では、外国との交流で、蒲生では韓国と交流が多くあったりしたので、今はコロナでなくなっていますが、コロナの中でもちょっとでも外国の人と交流できたらいいなと思います。



蒲生高校生

『商業施設』に関して、今コロナ禍で学校行事が中止だったり、規模の縮小で友達との思い出を作る機会が減ってしまったので、その代わりに放課後に遊びに行ったりとかの回数が増えてきて、その中で、学校帰りに友達と寄れるお店が少ないと感じてここに意見をあげました。

『観光・レジャー』に関して、鹿児島市内ではアミュとか谷山のイオンとか新しいことに関してすぐ流行りがきているのですが、始良では、例えばインスタ映えとか流行りが少ないと感じたので意見をあげました。

『交通』に関して、電車の本数、バスの本数が少ないと感じています。



龍桜高校生

2点だけお願いしたいことがあります。

1つ目として、自習施設が少なく、月額制でもいいので有料の自習室が欲しいなと思っています。図書館は無料ですけど、有料となると凄く学習意欲の高い人がきて、今の図書館の自習室では寝ている人やスマホをいじる人がいて気になるので、夜まで開いている有料の自習室があったらとても助かるなと思います。

2つ目に、駅をきれいにしてほしいなと思っています。イオンタウンもあるし、いろんなところが始良市にできている中で、隼人駅や国分駅と比べた時に、駅が小さいし、少しボロボロなのが目立つので、帖佐駅をきれいにしてほしいです。



鹿児島高専生



石田尾教授

ありがとうございました。一通り各校の皆さんに日頃感じていること、話題になっていることを簡潔にまとめていただきました。

皆さんに共通して出てきているのがバスと電車の本数等、交通手段の選択肢が限られているということでしたね。バス停は増えているのに、バスや電車の本数がそれに対応していないという指摘はなかなかするどい指摘だなと思いましたが、市長、このあたりはどうお考えですか？



湯元市長

今の公共交通の部分ですが、まず JR については、本数少ないですよ。どんどん本数が削られていって、肥薩線の方などは復興しないため利用もできないという状況は、切実な問題だと思います。今の電車の本数の件については、実際に利用している人たちしか気づくことができないんですよ。自動車免許を持っている人は、車で移動するので、「駅が不便だ」「駅がもっときれいになればいいのに」と言っただけでも、電車をあんまり利用しない人が多い。しかし、学生さんたちは利用せざるを得ない状況にある。だから、そういった声が非常に大事で、『本数を1本でも増やして！』と、学生さんたちの切実な声というのを届けていきたいと思っています。



湯元市長

続いてバスですが、たしかにバスの停留所は増えています。なぜバス停が増えるかというと、「あそことあそこのバス停の間が遠いから、その間にバス停を設置して」という声があるからなんです。その声が誰かということ、不便に感じているお年寄りを中心とした方々。じゃあ皆さんの声はどこに届きますかということなんです。でも今日、『本数増やして』『もっと便利にして』という声を聞くことができました。

ただ一つだけ分かってもらいたいののが、交通事業者の方々の声として大変だなと思うのが、『運転手不足』なんです。運転手がいなくて、運転手になる人がいない、運転手が高齢化、となると乗らない路線がどんどん減らされて、いっぱい乗ってくる路線に運転手をまわして、そういう企業努力をされているところが多いんです。

そういった実態も踏まえながらも、今日いただいた皆さんの切実な声があるということをしっかり届けていきたいなと思っています。



石田尾教授

ありがとうございました。

駅舎について話も出ていましたが、最近、伊集院駅というのが新しくなりました。元々伊集院駅というのは、片側しか出入り口がなく不便だったのが、かなり時間はかかりましたが、両方に出入り口がついて、バリアフリーでエスカレーターなどもついて立派な駅舎ができました。それは、そういう市民からの意見があったからできたわけです。なので、皆さんのこういう意見が、やがて大きなメインストリームになって動かしていくことになるわけです。帖佐駅も両面使えて構造も変わっていけば、まちの構造も変わって利便性も変わっていくんだろうなと思いました。



湯元市長

こういった利用者の声って非常に大事で、また、利用してくれることが大事なんです。ご家族の方にも、鹿児島市に行くときに『車じゃなくて電車やバスで行こうよ』って、一言、3回や5回に1回でもいいから言ってくれると乗降客や公共交通事業者の利益にもつながって、みんなの希望も叶いやすくなりますので、そういったこともよろしく願います。



石田尾教授

ありがとうございました。
皆さんの中で、アミューズメント施設、遊ぶ場所、それは二つに分けて考えるべきだとありましたね。一つは屋内で遊ぶ場所・スペースの問題を皆さんは指摘されました。それから屋外の公園や芝生などの自然の中のロケーションで回遊時間を過ごす場所が必要でないかというご指摘をいただきました。皆さんからの意見が多かったラウンドワンとかありますが、このあたりは市長いかがですか？



湯元市長

ラウンドワン楽しいですよ。ボウリング場もあればゲームセンターもある。
企業や店舗を誘致するのも行政の力です。ラウンドワンをピンポイントで攻めるのか、アミューズメントのエンタメ的な施設を攻めるのかは別として、皆さんがこれだけ欲しがっているのだから、一つの施設誘致・企業誘致として、選択肢に入ってくるなと思いました。
皆さんがこういうところで学校生活の青春や若い力を養っているのだなとわかりましたので、誘致企業・誘致施設として声をかけていきたいなと思います。



湯元市長

それから公園とかの施設ですね。始良市が都市型になっていく中で一つの施設として必要な部分でもあるかと思います。何より大事なのは、皆さんが利用することです。育ててほしいです。育てるとは何かというと利用することです。利用するとききれいになります。整備されます。人がいっぱい来るとその場所はお化粧し始めます。みんなに良く見られたいから。人が来ないとお化粧しません。草ボーボーになります。ということで、皆さんが何かムーブメントを起こしてくれば、あの公園で何かイベントを必ずやろうよってことをやってくれば、私たちも、整備しやすいし、このままでは危ないからきれいにしなきゃとなります。これが相乗効果であり、相乗効果を作っていく一つのきっかけを若い人たちが作ってくると、凄いムーブメントになると思っています。若い人はムーブメントを作りやすいんですよ。本当に皆さんたちのような若い人が動くと活性化する力が大人の数十倍、数百倍もあります。ですので、気になるところはぜひ活用していただくと助かります。

私たちも積極的に意見を聴いて、公園にこのような興味があるんだなっていうのが気付きましたので、今後の議題に乗せていきたいなと思います。



石田尾教授

ありがとうございました。

今、市長のほうから、先ほど皆さんからいただいた意見について回答いただきましたが、その他、鹿児島市の「かごりん」ならぬ、始良市の「あいりん」などの提案もあったようですが、この後、先ほど代表で質問を述べていただいたほかに、皆さんが質問したいことがありましたら、質問時間を取りたいと思います。

どなたからでも大丈夫ですし、先ほど発言した代表の方で先ほどの意見に言い足りなかったとかでも大丈夫ですのでどうぞ。



湯元市長

先ほどの代表の方の質問に全て答えられた訳ではないので、重ねて聞いてもらってもいいですよ。

事前課題で『仕事体験』と記入したのですが、鹿児島市内の方では、よく頻繁に仕事体験ということで、体験を行えることがあり、その中で自分がやりたいことをみつける機会があり、夢が膨らんでいくと思うのですが、今の若い人たちは、そういう機会が少ないため、自分の将来の夢が明確に決まってない人が多いので、始良のイオンとかいろいろな施設で仕事体験を増やせていけたらよりよくなるのではないのかなと思います。



龍桜高校生



湯元市長

その通りだと思います。

若い時から『職業』というものを意識して、学校によって実際に働いている方々の場にインターンとかで機会はあると思うのですが、企業や商工会の方々にもこのような意見があるということも伝えながら、学生さんたちにそういった経験をするようなチャンスがあるのであればぜひ声をかけてほしいと伝えていきたいと思います。



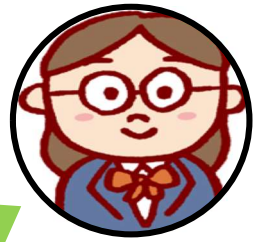
石田尾教授

ありがとうございました。

その他、質問ありませんか？あまり難しい質問とかでなくて大丈夫なので、普段思っていることや将来のことなどでもかまいませんので。

『環境・ひと・心』の欄になりますが、私の地元の蒲生や始良市内でもけっこう海外の方が住んでいて、働きにきている姿を電車とかでもよく見かけるのですが、その方々との交流がほぼ無いと感じているので、日本語の研修とか交流とかを、もっとアピールしてもいいのではないかなと思います。

もう1点、『その他』で18歳への選挙について書かせていただきましたが、選挙に行かないといけませんが、誰に入れればいいのかかわからず、18歳に引き下げられて、選挙の資料等は届くのですが、実際に行くとなると、誰をどういう基準で見たらいいのかわからないので、もっと下の若い人たちにもわかるような選挙の説明やアピールができれば、もっと積極的にイメージができるのと思うので、そのあたりを検討していただけたらと思います。



蒲生高校生



湯元市長

1 問目の質問について、今始良市には技能実習生のベトナムやインドネシアなどの企業に來られている方々が多いです。一番人口が多いのはベトナム、次にインドネシアや中国などとなっているのですが、国際交流協会が始良市にもあって、そこを中心に郷土料理の講習や日本語の講習とかが企業ごとに参加するということは既にやっておりますので、もし興味があればそういったところを覗いてみてください。

そして、成人式にも参加してくれています。ベトナムの方々が『アオザイ』といってベトナムの民族衣装を着て、加音ホールでの成人式に参加してくれています。

もう一つ選挙権の話で、当然、選挙に出る人の努力不足もあると思います。若い人へ、ツイッターや SNS、フェイスブック、インスタで発信とかを候補者によっては既にやってくれていたり、やろうとしています。そこで、興味をもってくれる人が 18 歳から 20 歳まででどれだけいるのかが、まだ図り切れていない部分があります。

一つだけ言うと、選挙の情報というのは PUSH 型ではなくて PULL 型なんです。自分で引き出してこないといけない。例えば 10 人ぐらい市議会議員選挙で候補者が出たたとすれば、若さでも学歴でもなんでもいいんです。『この人どんな人なんだろう？』とパンフレットなどを求めに行くというのをしないと、待っていても何も届きません。特に SNS で発信していない人たちは、紙やパンフレットを中心に周知活動をしているので、自分で求めに行かないと情報が入ってこないのです。18 歳になって、選挙に興味はあるけど何も情報が入っていないとなった時に、自分で求めていくのがまずは 1 歩かなと思います。

でも、『大人と一緒に判断』というのはしない方がいいです。分からないなら分からないで、それが 18 歳の感覚なので、それはそれで、皆さんの感じたままの選択をした方がいいです。大人と一緒に理解をして『この人』と選ぶよりは、『分からないけれど、でもなんとなくこの人いいよね』というのも 18 歳の判断なのかもしれません。『この言葉が気に入った』とか、そういうことかもしれません。そういう気持ちで臨んでいただけたらと思います。これからもいっぱい選挙があって色々な機会がありますので。



湯元市長



石田尾教授

ありがとうございました。今の質問では、始良市に訪れる外国の方たちとの交流展開を増やして欲しいとのことでした。最近、経済の動向によって、海外から特にアジアからの方が非常に増えてきていますよね。始良市でも市長の話のように、ベトナムや中国の人が増えているということで、アジアの人たちは、私たちに似たような感性があるので、積極的な交流の場というのが企業の中だけに封じ込めるのではなくて、お祭りの時とかにでも交流ができる仕組みがあるといいかなと思いますね。

『こんにちは』という言葉だけでもその人たちの言語で話せばすごく仲良くなれますよね。ちょっとした単語を覚えるだけで交流の機会になります。不思議なもので、海外に行った時に自分の国の言葉をちょっと話してもらっただけで、パッと心を開くきっかけになりますので、そういう機会を、若い人たちが持つという事はすごく大事なことはないかなと思いました。

加治木高校から述べさせていただいた意見で、地域の方とのつながりということに関して、加治木高校の生徒会では、今年度私たちも地域交流を積極的に進めようという方針で活動していて、その中で考えているのですが、鹿児島県の伝統的な教育体系として郷中（ごじゅう）教育というのがあります。そのシステムは現在にも応用できて、地域交流や始良市でもやられている学び場の活動にも通ずるものがあるかと思います。そういう、年上の方が年下の人に勉強や礼儀を教えるというそのような活動のお考えはありますか。



加治木高校生



湯元市長

郷中教育みたいなものを形づけて、明治時代、江戸時代にあったそういったものをちゃんと取り入れて、そういった形をしようという組織は始良市にはないですけど、鹿児島伝統の気持ちの持ち方や精神というのは根底に流れているんだろうなと思いますし、そういった気持ちでやっていくのは大事なことだと思います。地域の方々、大人の方々もそれはしっかりとやっていかないと、年下の方々が教えて教えてといっても、大人の方が教える気がないというのは、鹿児島の根底に流れる教育ではないと思いますので、そういったところも教育関係の方々と話しながら、若い人たちにもそういった気持ちもあるんだよということは、これからも気に留めてやっていきたいと思います。



石田尾教授

ありがとうございました。
他に質問はございませんか？



湯元市長

はい。先ほど、鹿児島高専の代表の方が、駅をきれいにしてほしいというご意見がありましたが、その点について、お答えしたいと思います。

帖佐駅からイオンタウンまでの道というのは非常に大事な道だと私は思っていて、今、その改善計画を県と一緒にやっております。駅前広場がきれいになり、旧道、そしてバイパス、それからイオンまでの道も広くなります。

そして、歩いて楽しいまちづくりにしようということで、市の若手職員がプロジェクトチームをつかって、どんなまち並みにしようか、歩きたくなるまちということで帖佐駅前を改革しようとしています。その案が出てきたら、若い人や商店街の人を含めて第三者が入って、どういった通りにしようかと検討していきます。そうしたことで、帖佐駅の周りはこの5年程でガラリと変わると思います。



湯元市長

しかし、そこで問題なのは駅舎なんですね。駅舎というのは、先ほど石田尾先生からもありましたとおり、伊集院駅のようなのをつくと、十数億円かかる。では、そのお金は誰が出すのかというと、欲しい人が出さず。つまり、地域が造ってほしいということであれば地域が出さなければならない。だから皆さんがどうしても駅を変えてほしいという、みんなで変えていこうよというムーブメントを起こしてくれれば地域の力となって、JRにも交渉することができるというような仕組みになっております。ですので、まずは、駅前や広場をきれいにして、イオンまでの道を活気づく道にして、どんどん人が集まるようになると活気づいて、じゃあ駅を変えましょうかとも言えるような雰囲気になっていくと思うので、ぜひそういったまちづくりをしていきたいので、皆さんとどういった通りにしたいか、どういったストリート、アベニューにしたいかということ、これから聞く機会も多くなると思いますので、ぜひその時には力を貸してください。



石田尾教授

ありがとうございました。今、市長の方から、駅を中心としたまちづくりというプロジェクトが進められていて、5年以内に皆さんがワクワクするようなまちづくりに変わっていければという話でしたが、そこには、皆さんのような利用している方々のご意見が反映されるべきだと思いますね。

今、『行政』に関する話が出ましたけれども、行政の話で『こういうことはどうなの?』という点があれば、ぜひこの機会に聞かせていただければと思いますが、いかがですか?

先ほど、公園をきれいにするためには、公園を利用することが必要という話があったんですが、私は蒲生にある太鼓坊主に所属していて、近くの公園でゲリラライブなどをよくするんですが、このように各地の公園で、色々なイベントなどをすれば、利用者も増えてきれいになるのではないかとこのことを提案したいと思います。



蒲生高校生



湯元市長

その通りですよ。人が集まるには何かイベントをしないとね。この公園にすれば楽しいことがあるよねという仕掛けを地元の人たちと共にやっていくことが大事です。行政がいくら突っ走っても地元の人が付いてこないとなかなかできないので。例えば蒲生だったら、太鼓坊主とか Lab 蒲生郷の人たちが中心となって地元の人たちが公園や地域を盛り上げていこうという気持ちがまずは根底にあって、そして、その場所では『ゲリラライブがあるよ』、『フラッシュモブがあるよ』っていうのを広報していく、伝えていくのは行政の力だと思うので、そういったことはぜひいっぱいやってください。蒲生に限らず始良市内でやってください。そういった気持ちがあるのは非常にうれしいです。ぜひ前向きに活動していただけたらと思います。



石田尾教授

はい。それでは、関連してのご意見でもいいですし、別のご意見等お持ちの方はいらっしゃいませんか。

僕の意見なんですけど、始良市には「これ」といったものがないと思っているんですけど、鹿児島市内だったらアミュだとか、国分だったらとか、そういったものが始良市にはないので、やはり少子化が進んでいるし、高校生や中学生が現状まだいる時点で人をたくさん集められるよう新しい商業施設を作るべきだと思いました。



加治木高校生



湯元市長

そうだよ。イオンだけでは足りないよね。いずれにしても企業誘致になるので、市が商業施設を作るわけではないので、民間の企業が始良市を選んでくれて、始良市のみんなと利潤を追求できるとしたら進出してくると思うんです。そこをトップセールスしていくのは私の仕事なのでやっていきたいと思っているのですが、例えばどんな商業施設があればいいと思いますか？

そうですね。正直に言うと遊園地がほしいです。あとプールが欲しいなと思います。



加治木高校生



湯元市長

そうですね。遊園地があれば人がいっぱい来ますよね。遊園地を市営、いわゆる市が運営する遊園地や動物園とかになるとなかなか大変なことがあるので、そういうことになる民間企業の力を借りるしかなくなってきます。民間の力を借りながら公的なものを作っていくことは珍しい事ではないので、こういった要望を多く受ければレジャー施設を作る検討をしていくことになるでしょうね。いつとか、いつまでとかいうことは言えないですけど、要望についてはわかりました。



湯元市長

あとプールについては、霧島市や鹿児島市とかはあるのにどうして始良市にはないんだという声はたくさん聞いておりました、私もプール欲しいなと思うんですが、いろいろな事情があったり、財政的な部分があったり、また、ランニングコストというのが相当掛かるんです。

私たちの小さいころ、鹿児島市の市営プールというのは屋外でした。いわゆる外だったんです。今、外のプールを造るとなったら『屋内プールでしょやっぱり』とか。『冬は温水プールでしょ』とか。『更衣室はこういう完備が必要でしょ』とか。色々とプールの要求のレベルがあがっています。そういったところも含めて、色々な事情で足を踏み込めないところもありますが、健康増進とか時代や市民のニーズが高まってくれば、それは作る気運になってくるとは思いますが、声がいっぱい届いているのは事実です。



石田尾教授

はい。
その他いかがでしょうか。

私は、『交通』に関して自転車専用レーンを作してほしいと書いたのですが、中学校3年間自転車通学をしていて、帖佐中まで3kmだったんですけど、その中で、歩行者と接触してしまう可能性があるかもしれないということで、自転車を押して通らないといけないところがあったんですけど、その距離が長くて、これは自転車通学の意味があるのかなと思ったことがあったので、そこを改善して、自転車だけが通れるところを作って欲しいなと思いました。



加治木工業生



湯元市長

私もそう思います。法令で自転車も車両だということで、本当なら車道を通らなければならぬという、色々な規制がある割には、安全性が確保されていないじゃないかという、どのまちも混沌とした状況なんです。日頃の自転車を通学・通勤に使う人、買い物に使う人、観光に使う人、そういったものを含めて自転車というのは国をあげて注目をされています。つまり、カーボンニュートラルとか環境とかに関わっていきます。

自転車というのをもう一度見直し、見直すためには道路環境を整備しなければいけないと国の方もそのような方に動いて行って、国が動けばどう地方が変わっていくかという補助金とか交付金とかそういったものが整備されてくるのではないかなと私は予想しています。それに早くアンテナに情報を引っかけて、始良市がいち早くそのような状況にしていきたいなと思っております。それがいわゆる通勤・通学や買い物に使うところの整備です。



湯元市長

もう一つは、もっと先に進んだ話になるのですが、サイクルツーリズムという観光に自転車を使う、レンタサイクルを含めて、あと自転車をもって来る海外の旅行者も含めて、そういったものの整備というものが、国交省を中心として、鹿児島島の錦江湾の周りを整備しようという動きが非常に早く進んでいます。その錦江湾の周りに始良市は入るわけです。霧島市、始良市、鹿児島市、垂水市の部分が早く整備をしようということで、もしかしたら何年後かわかりませんが、国道10号に自転車専用道路ができるかもしれません。

自転車を使った観光、そして自転車を使った生活、というものを国が見直しを図っておりますので、そこは期待できる所かなと思っておりますので、始良市はそれを敏感に察知しながらやっていきたいと思っています。リードできるような感じでやっていきたいなと思っております。

自転車、サイクルツーリズム、そういったものについては積極的に始良市も取り組もうとしていますので、期待してもらえればなと思います。



石田尾教授

はい。ありがとうございます。
どうですか？その他？

個人的な意見なんですけど、始良市の魅力として、海岸に近いことも魅力の一つだと思っていて、特に中高生は遊びとかで利用することが多いと思うんですけど、やっぱりゴミとかが目立っているんで、地域全体でボランティア等を募集して、年に1~2回でも海岸の掃除とかをすれば、地域の人との交流も増えるし、小さい頃からそういうのに参加していればボランティア精神も芽生えると思うし、利用する人も増えて、プラスになることが多いと思うので、そういう取り組みを増やしていったらいいのではないかなと思います。



加治木高校生



湯元市長

ありがとうございます。実は、始良市では、年に2回、錦江湾クリーンアップ作戦という形で、重富海水浴場、脇元海岸、須崎海岸、松原海岸の4か所、年に2回、夏と秋に錦江湾クリーンアップ作戦という形で、早朝からやっているんですよ。小さい子どものスポーツ少年団から、地域のおじいちゃんおばあちゃんまで、そして、企業の方々なども参加してもらって作業をしています。ぜひ一度参加してみてください。今度、秋は11月中旬ぐらいにやりますので、ぜひ参加してみてください。

そのような錦江湾を利用した観光をしようという環境部分で、まず錦江湾をきれいになければダメだよねという考えでこのクリーンアップ作戦というのは行われています。始良市だけでなく霧島市も垂水市もそういったことをやっていますので、錦江湾を観光の名所にしようという考えが一番上にあります。ぜひ参加してみてください。



石田尾教授

身近な資源に親しみを持つ意味でも、やはり、自分たちが参加する機会があるといいですね。
それでは、引き続きご意見いただきましょうか。

『観光・レジャー』の欄になるんですが、友達との間でスケートボードがはやっていて、どうしてもスケートボードで遊ぼうとすると、施設が近場がないので、駐車場とか他の施設のスペースで、スケートボードで遊んでしまい、自然にたまり場になってしまっていて、迷惑と思われる方も少なからずいるので、スケートボード場を近場に作ってもらえれば、迷惑することもないし、作ってもらいたいと思います。



加治木工業生



湯元市長

あれだけ東京オリンピックでメダルを取って、スーパースターがうまれて、スケボーがはやらないわけがないよね。始良市で1か所だけ、屋内だけど、倉庫を改造して個人で作りましたって方がいらっしゃいます。いわゆる、パークみたいのではなく、半筒型のやつを作ってやってらっしゃるんですけど、要望としてはパークみたいな、手すりや階段を使ってやるやつが欲しいんですよね？

はい。そうです。



加治木工業生



湯元市長

その気持ちはよく分かります。東京オリンピックが終わった後に、東京都の大田区というところがスケボーの専門公園みたいなものを作りました。そこは羽田空港に近くて、その作った場所が電車の高架線の下。そこは、なぜ高架線の下に作ったかということ、電車が通ったりして元々うるさい場所だから、住民にもそんなに迷惑にならないだろうと考えて作ったんだけど、電車の音とは違う苦情がくるみたいなんです。だからそこら辺の住民の理解とそういったところが相まえば作れるんじゃないかなと思っています。けっこうスケボーをやっている人は多いですか？

けっこういます。



加治木工業生



湯元市長

それは遊びでやっているのか、将来的なことを考えて、将来的にスケボーでなんとかという感じなのか？



加治木工業生

将来的なことはたぶんないと思います。



湯元市長

いわゆる、遊びやスポーツとしてやっているということね。そういう人が多ければ、おじいちゃんやおばあちゃんたちにはグラウンドゴルフ場があるわけですので、若い人たちにスケートボード場があってもおかしくないよね。使う人が多ければ、そんなに難しい事ではないと思いますが、でもルールとマナーとエチケットを守らないといけないというのは当然あると思います。この意見については、私の気持ちの中に刻み込んでおきます。ありがとうございます。



石田尾教授

ありがとうございました。
その他、関連していかがでしょうか？



龍桜高校生

夏祭りの件についてなんですけど、もうちょっと夏祭りの開催を増やして欲しいなと思いました。市内でもあると思うんですけど、行くまでが遠くて時間が掛かるので、もうちょっと身近な所で夏祭りの開催を設置してほしいなと思いました。



湯元市長

それは、『夏祭り』に限定するのかな？
いわゆる『祭り』っぽいものをいっぱい作ってほしいってことかな？一年間で、『夏』に祭りがほしいってこと？



龍桜高校生

夏に限らず、お祭りとかが少ないと思うので、増やして欲しいです。



湯元市長

そうですね。皆さんが、高校生という年代になって、自由に動けるようになったのに、コロナが2~3年続いて、非常に寂しい思いをしているかと思います。元々、始良市内でもたくさん祭りはあるんです。けど、それがこの2~3年中止になっているので、『祭りがないよね』ってなっているんだと思います。けど、今年はできるだけ祭りをやろうという気運になっていますので、だんだん復活してくるとは思います。あと、来年の3月に春祭りというのをやります。新しい祭りです。これは総合運動公園で桜の咲く季節に、3月下旬ぐらいに春祭りというのをやりますので、またそれも夏とは違った祭りとして、有名な春の名物になりたいなと思っていますので、ぜひその時は参加してください。



石田尾教授

はい。ありがとうございました。
さあ、もう少し関連して、お時間が少しありますのでどうぞ。

市長にお伺いしたいのですが、市長は将来どんな始良市になってほしいか、そういう将来のビジョンみたいなものがあれば教えていただきたいなと思います。



鹿児島高専生

始良市は合併して丸12年経っています。されど12年しか経っていません。未熟な部分もいっぱいあります。未熟な部分があるということは、良い言い方をすると『可能性がある』、『伸びしろがある』、ということですが、そればかりを売りにしていると、いつまでも未熟だということじゃないですか。なので、それを1個でも、1歩でもいいから成熟に向けて成長させていきたい。これからの10年は、基礎を作った12年の上に成熟に向けて一つでもいいから未熟な部分を解決していく10年にしていきたい、そういった始良市にしていきたいと思っています。それをできるポテンシャルが、潜在能力が始良市にはあります。それを活かしながら始良市を活性化して大きくしていきたいと思っています。

なぜ今回みなさんに自己紹介の際に『10年後のあなたたち』というのをお聞きしたかという、この10年が皆さんが主役になる、20代を過ごす10年になるからなんです。みなさんの若い力で始良市をけん引してもらいたい、と思っています。どんな始良市にするか、どんな活性化に導いていくのかということと一緒に考えていきながらの10年にしたいなと思っています。皆さんは成長して年をとっていきますが、始良市はそのまま地域として残ります。皆さんが残した足跡が確実に残っていくのが『まち』ですので、ぜひ意見を言っていただきたいなと思っております。そのようなポテンシャルをもった始良市を成熟に向けて一步一步進めるのが私のビジョンです。



湯元市長



石田尾教授

住みたくなるまち、住んでみたいまち、住んでいることを誇りに思えるまち。究極なことへ向かっていくんだらうと思います。そのためには、今市長からありましたように、若い世代の人たちがまちに関わっていただく、まちで営みを継続できる、仕事があるということが非常に大事ですね。

地域社会が活力をもつためには、まちを知るということ、まちを考えるとということ、まちをデザインする、まちを造る、まちを育てるとということ、そういういくつかのステージがあるのではないかなと思って皆様のお話を聞きました。

始良市の将来に向けて、簡単なわかりやすい言葉でいうと、大人のまちづくり、成熟化していくということが大事ですね。市民や住民の意識がもうこの辺でいいよとなれば、そこで成長は止まってしまいますよね。目標が低ければ低いほど、達成しやすいんですから。でもこんなまちになりたいと、今市長がお話しされたように、10年後こんなまちになってほしい、成熟したまちに、大人のまちになってほしいとならば、目標がそこにあがっていきますから、そこに向かっていく。ということは、住民の意識がまちの質や核を決めていくのではないかなと聞いて思いましたね。そういうところから、まちづくりのお話の中で非常に大事な言葉をいただいたのではないかなと思います。

学校や用事で帰宅時間が遅くなった時に、歩いていて思うのが、街灯が少ないなと毎回思っていて、どうしても『犯罪に巻き込まれないかな』と心配になったりして、北九州市でも殺人未遂があったとおり、いつかどうい犯罪が起こるかわからないので、少しでも犯罪誘発を抑制するためにも、街灯を増やしていただけたらなと思います。



蒲生高校生



湯元市長

ありがとうございます。この3年間で、今まで蛍光灯だった街灯をLEDに変える事業をずっとやってきました。今でも続けていますが、足りないところもいっぱいありますよね。そこがですね、先ほどもいいました始良市の未熟な部分なんです。追いついていないんです。追いつこうとしているんだけど、それよりも早く住宅地がどんどんできていってしまうという傾向もありますので、行政が気付くというのが届かないところがあります。だから、今回のように声としてこういうところが街灯がないので危ないんですと、ぜひ提案してもらいたい。そこは犯罪を未然に防ぐためにも、交通事故を未然に防ぐためにも、街灯の重要性はあると思います。なんのために街灯があるのかといたら、皆さんの生活の安全を守るためですから、そこは最優先していかなければならないと思っています。ぜひこれは早く解決していきたいと思っています。よろしくお願ひします。



石田尾教授

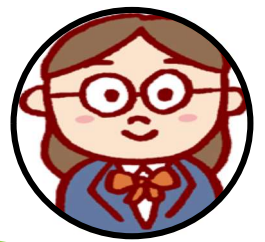
はい。ありがとうございました。

皆さんの意見を事前に読ませていただきましたが、地域に住むということで、コミュニティのあり方、これを大多数の方が指摘されていますね。コミュニティだとか、あるいは、生活のレベルだとか、地域間交流だとか、一人暮らしの老人の見守りとか、そういうことについて皆さんから大事ではないかと指摘を受けています。安心で安全なまち、そして、そこでコミュニケーション、コミュニティが形成されていくということ。これは非常に大事なことだと皆さんのアンケートを見させていただきました。

そこのところを皆さんの意見をもう少し聞きたいと思っているんですが、どなたか地域でのボランティア活動も含めて、こういったところがもう少し期待出来たらいいんだけどなあとか、質問があったらいただきたいんですが、どうでしょうか？

今回のこの会議で色々な話を聞いて思ったんですが、私自身が知らないボランティアやお祭り、イベントとかがあったりするのを、知らないのがほとんどの現状じゃないかなと思いました。なので、地域住民がもっとこういうのを知れるような、「高校生のボランティアを募集しています」とか記載してもらえると、参加してみても得られるものがあったり、「こういう公園があります」「こういうイベントをしています」という風に出してくれれば、いいきっかけになると思います。

あと、どの高校も『商業施設』や『観光・レジャー』の欄に具体的な店の名前があがっているなと思い、それらを例えばサイトを作り、始良市にこういう専門店とか施設があったらいいなというのを投票形式で一般の人に簡単に投票してもらい、ランキング形式で発表するとか、そういう風にもっと行政と地域の人との関わりを見せられたら、実際に住んでいる人と始良市として成長できるんじゃないかなと思ったので、もっとアピールを見せられたらいいんじゃないかなと思います。



蒲生高校生



石田尾教授

ありがとうございました。市長どうですか？今情報発信というのが、凄く社会を動かして、世界中のロシアやウクライナやらの情報が、私たちがどこにいても瞬時に入ってくる時代。苦労しなければ情報がとれないような時代ではないので、そういう意味でも、このまちのうごめいている様子を、静と動であれば、動の部分の情報発信が必要かと思います。始良市は色々工夫されているまちだとは思っています。

始良市の広報紙なども読まさせていただいていますが、いろいろな角度から取り上げられていますし、市長さんのご努力も、職員・スタッフの皆さんのご努力もあると思いますが、このあたりどうですか？



湯元市長

私も情報発信をする場の民間企業にいたので、情報発信する側のおごりというのは非常に知っています。というのは、『発信しているからみんな受け取っていてくれるだろう』って思っちゃうんですね。だけど、なかなかみんなには伝わっていないというのが事実です。じゃあ、どのように発信すればいいのかということを考えるのが発信者だと思うんです、特に行政含めてね。そうすると、今発信の仕方というのは、ある一定の年齢以上の方々に向けた発信の仕方は充実しているんだと思います。

市報、回覧板、チラシ、ポスター、ホームページ。しかし、それも目にしない、高校生のみみんなは市報なんて読まないでしょ？回覧板まわってきても読まないでしょ？発信しているつもりなんだけど、受けとめ手がそれを目にしない、いわゆる自分たちの確保する情報ではないという風に思っている方がいれば当然ですそれは。逆にそういった方々、いわゆる若いみなさん含めて、どう発信すれば目にしてくれるのかっていうのを逆に聞きたいと思っています。



湯元市長

例えば『SNSでアカウントを作りました』と、じゃあそれを常に見てくれるかという魅力がないと見ないでしょ？それでLINEとかで強制的にくるといいのかなとか、そうすることで見てくれるのか、そういったところが発信者として迷うところで、ぜひ、高校生のみなさんに発信するにはどうしたらいいかと教えてもらいたいぐらいの気持ちです。

何かしら変えていかないといけないなと思っているので、ここでお答えいただくことはないので、ぜひともそういったヒントをいただければ、行政がしっかりと皆さんに届くような形でやっていくことも可能だと思います。

命にかかわることであれば、防災情報とかいろんなツールを使っています。例えば、目や耳が不自由な方々にも伝わるように、『全員に情報がしっかりと届いているだろうか』という風にやっています。情報が皆さんに届くような形でぜひやっていきたいので、そのへんのところのアドバイスをいただければなと思っています。よろしくお願いします。



石田尾教授

ありがとうございました。